

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部図書館

教育部長 岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か年実施計画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評価	評価内容	方向性	内容
30-001	図書館一般事務	なし	C	<p>各事業にボランティアと協働で取り組み、図書館事業への参加者数増加につなげることができた。平成30年度は、赤ちゃんとしょかんを本格的に開始し、3か月児健診受診者を対象に読み聞かせの大切さを伝え、読書手帳を配布。また、希望者には赤ちゃんの貸出券をその場で発行した。受診者964組のうち493組の親子が参加し、442名の赤ちゃんに貸出券を発行して絵本を貸し出すことができた。今後も、学校との連携、高齢者や障がい者に対するサービスの向上など、誰もが利用しやすい図書館となるよう、読書環境の整備に様々な方法で取り組んでいく必要がある。</p>	改善推進	<p>誰もが親しみを持って利用できる図書館をめざし、ボランティア団体と協働で行事を開催する。ボランティア養成講座を実施し、新たな読書推進の担い手の育成に努めるほか、高齢者、障がい者に向けたサービスのPRに努め、図書館資料の利用を促進する。第2次半田市子ども読書活動推進計画(令和3年度～)を策定し、家庭・地域、保育・教育機関、図書館が連携して子どもたちの読書活動推進に向けた活動を進める。</p>
30-002	図書館資料整備事業	なし	C	<p>利用者にとって関心が高いテーマや時節に沿った特集コーナーを月毎に設置し、関連図書を紹介した。図書の購入に際しては、幅広い年齢層の利用者にとって魅力ある書棚となるよう、リクエストに応えながらの選書に努めた。また、HP、フェイスブック、ツイッターなどを利用して新着図書のほか、行事・講座等のPRを行い、市民向けの情報発信を強化した。今後も、図書館資料を充実させるとともに、利用しやすく親しみやすい読書環境の整備を図っていく必要がある。</p>	改善推進	<p>利用が少なくなった図書の閉架への移動やリサイクル、破損・汚損した図書の廃棄など、書棚を適切に整理し、本を手に取りやすくゆとりのある快適な読書環境をつくる。利用者のニーズに合った図書資料を整備するとともに、郷土資料の収集にも努め、地域情報の集約場所としての機能を維持する。図書館行事、博物館の展示、また市の事業に合わせた特集コーナーを設けるなど、他課とも連携しながら利用促進を図っていく。</p>
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
B	<p>年間入館者数はなかなか増えないものの、各行事にボランティアと協働で取り組み、図書館事業の参加者数は増加した。平成30年度から本格的に開始した「あかちゃんとしょかん」事業は、参加者493組に対して乳幼児期における読み聞かせの大切さを伝えることが出来た。小さな頃から本に親しむきっかけ作りとして、これからも進めていきたい。学校との連携については、学校の要望を聞きながらブックトークや調べ学習用図書の貸出しを実施することで、学校での読書支援につながっている。(調べ学習:対前年比966冊増)</p> <p>高齢者や障がい者に向けたサービスは、PRしていくことで利用が増える可能性が高い。今後も、所蔵資料の充実を図りながら、より多くの人々が本に親しめる環境づくりのため、様々な方法を検討し、取り組んでいく必要がある。</p>					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	<p>学校等への読書支援として、巡回文庫を実施するとともに、司書による学校でのブックトークや、調べ学習用図書の貸出しなどを行い、子どもたちの読書活動を推進した。また、「魅力ある図書館づくり」を目指し、本への関心が高まるような様々な企画・行事を、ボランティア団体の協力を得て実施することが出来た。</p> <p>今後も、各種講座や様々なイベント等を通じて図書館の利用促進を図り、乳幼児から大人まで幅広い年齢層の読書環境の整備に努め、親しみやすい図書館を目指すこと。また、「第2次半田市子ども読書活動推進計画(令和3年度～)」の策定に向けた準備を進めること。</p>					